



平成17年度文化庁芸術拠点形成事業

AI・HALL+北村想プロデュース

作／北村想

MONO語り

怪人二十面相・伝

演出／中村賢司

出演／船戸香里

【日時】

8月12日(金) 19:00

13日(土) 19:00

14日(日) 15:00

【会場】
アイホール
JR伊丹駅前

お問い合わせ

AI・HALL ☎072-782-2000

aihall@juno.ocn.ne.jp

http://www6.ocn.ne.jp/~aihall/

AI・HALL

怪人二十面相・伝

作／北村想

演出／中村賢司(空の驛舎)

出演／船戸香里(清流劇場)

河本久和・塚本久留美(空の驛舎)

山口晶子(リリコイ)

舞台監督・美術／池田ともゆき(TANCI池田意匠事務所)

照明／岩村原太 西岡奈美

音響／金子進一

宣伝美術／下東英夫(AIRS)

写真／石川隆三

制作協力／小林みほ(pinkisht)

製作／AI・HALL

あらすじ

貧しい下駄職人の三男坊・平吉は、サーカス団に入れられて、そこで師と仰ぐ丈吉に出会った。丈吉は手品や曲芸を平吉に仕込むが、ある日、忽然と姿を消してしまう。その後、魔法のような手品で美術品を盗み出す謎の怪盗が巷を騒がせ始めた。昭和初期の懐かしい風景の中で展開される数々の事件。明智小五郎探偵と怪人二十面相による数々の名勝負の真実が二十面相の劇から初めて語られる!

北村想独自の着想から生まれた『怪人二十面相・伝』が、小説版からラジオドラマ版、さらに舞台版を経て、今回、新たに一人芝居バージョンでよみがえる。出演は清流劇場・船戸香里。演出には空の驛舎・中村賢司。どうぞご期待下さい。



『怪人二十面相・伝』クロニクル 北村想

虚構の人物で最も有名な人間のひとりである怪人二十面相の「伝記」を書こうと思い立ったのは、小学生の頃です。貸本屋で江戸川乱歩先生の少年探偵シリーズという単行本を全部読んで、私は明智小五郎よりも小林少年よりも少年探偵団よりも、二十面相のほうが好きになりました。高等遊民とプチブルの坊ちゃんたちに対する妬みと、小工場でせせと怪人のきぐるみを創る二十面相の姿が、その頃下請けの工場でプレスを踏んでいた父と重なったのかも知れません。この時の感触はいまでも記憶していますが、自分は将来作家になって、二十面相の伝記を「書くぞ」という決意ではなかったぶん「書くことになるだろう」という予感のようなものでした。

それでああ、芝居なんかしてたんですけど、ある時、劇場に新潮社的小林女史が現われて「ナニか小説を書いてみませんか」ときたもんですから、口が滑って「では」ということになったワケです。ほんとはライフワークというヤツにしたかったんですけど、まあ、健康に自信がなかったのでもいいか、と思って書き始めて、出来上がるまでに三年かかりました。よくまあ小林さん、待っていてくれたもんです。小出しに送ると「次が読みたい」という返事。これを三年間やっただんです。ところで、これは出版されると、ベストセラーにはなりはしませんでした。映画化の話が幾つもきました。で、五つも六つも立ち消えました。私は、小説を舞台にしたりしてたんですけど、船戸香里という逸材をみつけて、是非一人芝居で演じてもらいたくなりました。

と、まあ、不思議なもんで、十年前に最後に映画化の企画を持ち込んだ制作会社が、業界で成長して、やっと映画化出来そうですと十年ぶりに連絡がありました。こういうのを縁というんでしょうね。なんだか、違う意味でほんとのライフワークになりつつあります。ひとには天命(天から与えられた使命)というのがあるんだなあと、感慨無量です。



作／北村想(きたむら・そう) ●劇作家・小説家。84年『十一人の少年』で第28回岸田國士戯曲賞、89年『雪をわたって…第二篇・月あかるさ』の作。演出で第24回伊国屋演劇賞個人賞、05年、愛知県芸術文化

選奨文化賞、NHKラジオドラマ『ケンジー地球ステーションの旅』のシナリオでギャラクシー賞など受賞多数。戯曲のみならず小説、シナリオ、童話執筆など多方面で活躍。96年よりアイホールにて戯曲塾「伊丹想流私塾(いたみ・そりゅうしじゅく)」で塾長を務める。



演出／中村賢司(なかむら・けんじ) ●劇作家・演出家。空の驛舎主宰。伊丹想流私塾卒塾後、99年より劇作開始。01年より伊丹想流私塾・師範を務める。03年『空の驛舎』結成。同年『てのひらのさかな』で

10回OMS戯曲賞佳作を、また『空の驛舎』で第3回かながわ戯曲賞最優秀賞を受賞。



出演／船戸香里(ふなと・かおり) ●役者。清流劇場所属。97年アイホール演劇ファクトリー第一期に参加。01年清流劇場に入団。以降すべての作品に出演。北村想作品への出演は『輝夜姫』(びわ湖ホールプロデュース)、清流劇場『この恋や思いきるべきさくらんぼ』(作・北村想／演出・田中孝弥)に続き三度目。

小説『怪人二十面相・伝』(北村想)

89年に出版(新潮社)され95年にはハヤカワ文庫に収録。ミステリ作家の北村薫が「自分の作品だったらよかったのにと思っくらしい好きな文庫3冊」にあげ「二十面相ストーリー」という謎に挑んだという意味では快い本格探偵小説。戦後ミステリ・ベストテンに入りたい作」と絶賛。92年にNHK-FMでラジオドラマ化、95年には『戯曲・怪人二十面相★伝』としてプロジェクト・ナビが舞台化し東京・大阪・名古屋を巡演。2002年には、続編の『怪人二十面相・伝 青銅の魔人』とあわせて合本『怪人二十面相・伝』完全版(出版芸術社)が出版された。

【日時】

8月12日(金) 19:00

13日(土) 19:00

14日(日) 15:00

全席自由席。整理番号順に入場。

受付は各開演の1時間前より、開場は30分前より開始。

【会場】

アイホール JR伊丹駅前

【料金】

前売・当日共2,200円 学生2,000円

チケット取扱

電子チケットぴあ

☎0570-02-9999

☎0570-02-9966 [Pコード:362-543]

@ぴあ <http://t.pia.co.jp/>

アイホール

お問い合わせ

AI・HALL ☎072-782-2000

aihall@juno.ocn.ne.jp

<http://www6.ocn.ne.jp/~aihall/>